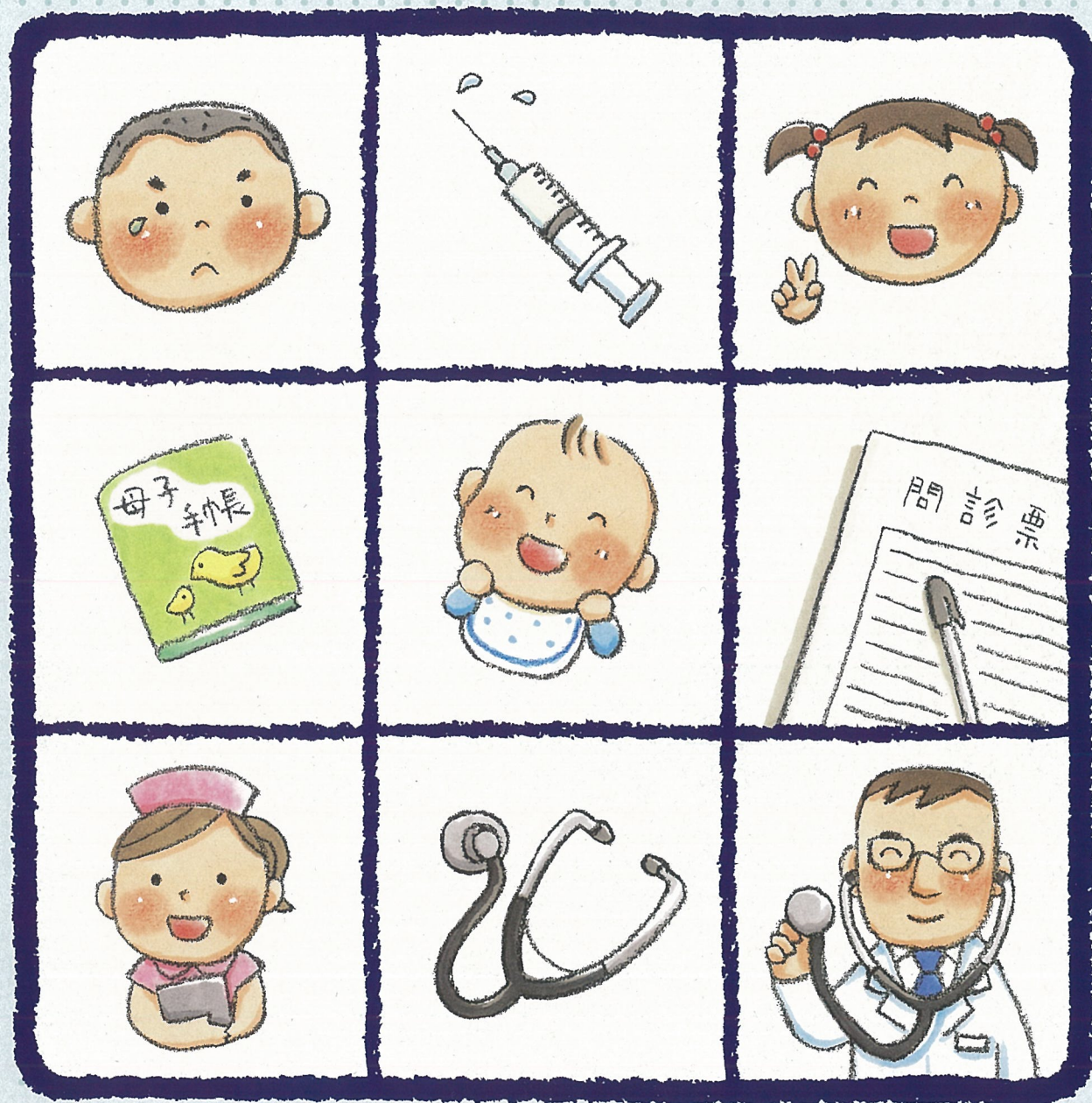


予防接種の手引き



静岡県立こども病院
静岡県予防接種センター

予防接種の基本

●予防接種の目的

予防接種は、個々人が感染症に罹患すること、あるいは、危険な感染症が社会に流行することを予防することを目的としています。

感染症は、罹患すると、たとえ治療したとしても重い後遺症を残したり、死亡したりすることがあります。また、治療手段がない感染症もあります。予防接種により、重篤な感染症にかかるリスクを減らすことができます。

●予防接種の方法

感染症に対して免疫のない人に、感染症の原因となる病原体由来のワクチンを接種し、人工的に感染症に対する免疫を誘導します。

●ワクチン

ワクチンは、病原体や病原体由来の物質を無害化し、病原体に対する免疫を誘導する作用をもたせたものです。不活化ワクチンと生ワクチンがあります。

不活化ワクチンは、死滅させた病原体を原料としており、病原体が体内で増えることはありません。生ワクチンは無害化したウイルスや細菌を含み、これらが接種された後、接種部位や体内で増殖することにより免疫効果を発揮します。

不活化ワクチンと生ワクチンでは、接種回数や接種間隔が違います。

●ワクチンの安全性

ワクチンは、健康な人に接種するので、健康被害が生ずることのないように、安全性確保には最大の注意が払われています。したがって、通常は健康被害が生じることはありません。

しかし、非常にまれですが、不測の因子により健康被害が発生することがあります。予防接種の副反応についての情報は常に収集されており、問題があれば迅速に予防接種を中止するなどの処置が取られます。また、ワクチンによる健康被害には補償制度が備えられています。

●保護者の方へ：予防接種を受ける前の注意点

- 1) 母子手帳を忘れずに持参してください。
- 2) 定期接種では、市町村から配られた予防接種券やシールも忘れずに。
- 3) 事前に配布される予防接種の説明書を読んでください。
- 4) 予診票を記入してください。
- 5) 受ける予防接種の内容を確認して、同意欄に署名してください。
- 6) 医師の診察を受けてください。

●保護者の方へ：予防接種を受けた後の注意点

- 1) 予防接種を受けた後は約30分間ほどその場にとどまり、様子を見てください。
- 2) 予防接種を受けた部位を揉まないでください。
- 3) 観察時間中や帰宅後に、異常がみられた場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 4) 帰宅後、軽度の運動や入浴は差し支えありません。

予防接種の実際

●ワクチンの種類

- ・定期（勧奨）接種ワクチンは、公費で接種されます。B型肝炎、ヒブ、小児用肺炎球菌、四種混合（ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ）、BCG、麻疹・風疹混合（MR）、水痘、日本脳炎およびHPVワクチンが指定されています。ただし、現在、HPVワクチンは勧奨接種が差し控えられています。
- ・任意接種ワクチンは、自費で接種します。ロタワクチン、インフルエンザ、おたふくかぜワクチンなどがよく使用されます。

●定期接種の年齢

- ・定期接種の場合は、ワクチンごとに接種年齢が定められています。その期間を外れると任意接種になってしまいます。
- ・いろいろな事情のため、定められた年齢で定期接種を受けられなかった場合でも、任意接種として、定められた回数のワクチンを接種することで必要な免疫をつけることができます。

●特別の事情がある場合の救済措置

- ・重い病気など特別の事情があり、定期接種を定められた年齢で受けられなかった子どもには、その事情がなくなった後、2年以内であれば定期接種として接種可能です。
- ・ただし、ヒブワクチンは10歳に達するまで、小児用肺炎球菌ワクチンは6歳に達するまで、四種混合（DTP-ポリオ）は、15歳に達するまで、BCGは4歳に達するまでという上限があります。
- ・骨髄移植後のワクチン再接種に助成制度がある市町村もあります（浜松市・焼津市など）。

●接種間隔、接種回数

- ・不活化ワクチンを接種後、他のワクチンを接種する場合は、中6日以上あけます。
- ・生ワクチンを接種後、他のワクチンを接種する場合は、中27日以上あけます。
- ・同じワクチンを反復接種する場合、それぞれに指定された接種回数と間隔を守る必要があります。

●同時接種・接種部位

- ・一度に複数のワクチンを離れた部位に、同時に接種することが認められています。
- ・接種部位は上腕伸側に加え、大腿前外側など下肢に接種することもできます。
- ・ただし、同じ日に別の施設で予防接種を受ける「同日接種」は認められていません。

●副反応・健康被害

- ・ワクチン接種後に異常な症状が見られた場合、接種医の診察を受けて下さい。
- ・副反応を診察した医師は、所定の症状がみられた場合、副反応報告書を厚生労働省に提出しなければなりません。
- ・副反応報告書は、保護者から提出することもできます。担当の市町村部署で相談してください。

●接種不相当者（禁忌）：予防接種を受けることができない者

- ・明らかに発熱している者（37.5℃以上）。
- ・急性の重い病気にかかっている者。
- ・ワクチンの成分に対してアナフィラキシーなど重いアレルギー反応がある者。
- ・麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜの場合：妊娠している者。
- ・BCGの場合：ケロイド体質の者。

●要注意者：予防接種にあたり、注意が必要な者

- ・予防接種の成分に対してアレルギーを起こす恐れがある者。
- ・過去にけいれんを起こしたことがある者。
- ・基礎疾患がある者。この場合、予防接種の可否は、基礎疾患の内容や程度、経過により異なるため、主治医と相談してください。

主な感染症

<p>B型肝炎</p>	<p>肝機能障害を引き起こします。劇症肝炎で死亡することもあります。乳児が罹患すると慢性化し、将来、癌化することもあります。</p>	<p>HBワクチン 定期</p>	<p>効果 90%以上 副反応 少ない</p>
<p>インフルエンザ菌</p>	<p>乳幼児に肺炎や髄膜炎など重い症状を引き起こします。</p>	<p>ヒブワクチン 定期</p>	<p>効果 重症感染症減少 副反応 発赤腫脹5%以上 発熱5%以下</p>
<p>肺炎球菌</p>	<p>乳幼児に肺炎や髄膜炎など重い症状を引き起こします。</p>	<p>小児用肺炎球菌ワクチン 定期</p>	<p>効果 重症感染症減少 副反応 発赤腫脹80%、 発熱30%以下</p>
<p>百日咳</p>	<p>乳児が百日咳にかかると激しい咳が長く続きます。重いと窒息や脳症のため死亡することがあります。ワクチンでほぼ完全に予防できます。</p>	<p>四種混合ワクチン (DPT-ポリオ) 定期</p> <p>効果 ほぼ100% 副反応 局所反応40%以下 発熱20%以下</p>	
<p>破傷風</p>	<p>激しいけいれんが起きます。確実な治療がなく死亡率が高い病気です。年間100人程度が発症していますが、ほとんどがワクチンを受けていない人です。</p>		
<p>ジフテリア</p>	<p>イヌが吠えるような特有の咳や呼吸困難がみられ、重いと窒息します。毒素による障害もあり死亡率は10%に達します。</p>		
<p>ポリオ</p>	<p>風邪のような症状の後、手足のまひが出現します。</p>		
<p>結核</p>	<p>年長児では肺結核、乳児では髄膜炎や敗血症を引き起こします。</p>	<p>BCGワクチン 定期</p>	<p>効果 乳児の重症結核を予防 副反応 まれにコッホ現象</p>

とワクチン

麻疹

最も重い感染症の一つで、高熱と特徴的な皮疹がみられます。肺炎や脳症で死亡することもあります。感染力が非常に強いのが特徴です。



麻疹・風疹混合 (MR) ワクチン

定期

効果
95%程度
副反応
発熱20%以下

風疹

軽度の発熱と皮疹がみられます。妊婦が罹患すると、こどもに先天性風疹症候群という重い障害が残ります。



水痘

(みずぼうそう)

発熱と水をもった皮疹が特徴です。かさぶたを作って治ります。感染力が非常に強いのが特徴です。帯状疱疹の原因になります。



水痘 ワクチン

定期

効果
2回接種で90%以上
副反応
少ない

日本脳炎

けいれんや意識障害など脳炎症状が出ます。感染しても発症する頻度は低いのですが、一旦発症すると死亡したり、重い後遺症が残ります。



日本脳炎 ワクチン

定期

効果
80~90%
副反応
発熱20%以下
局所反応20%以下

HPV

いぼの原因ウイルスです。子宮頸癌の原因になります。



HPV ワクチン

定期

効果
前癌状態90%抑制
副反応
疼痛80%、紅斑30%、失神

ロタウイルス

冬の流行性下痢の原因ウイルスです。脱水症や脳症で重症化することがあります。



ロタ ワクチン

任意

効果
重症化90%抑制
副反応
10%以下 不機嫌、発熱、下痢

インフルエンザ

呼吸器感染症ですが、高熱と強い倦怠感、頭痛など全身症状が強いのが特徴です。肺炎や脳症で死亡することもあります。



インフルエンザ ワクチン

任意

効果
成人70% 小児30%
副反応
発赤腫脹5%以上
発熱5%以上

おたふくかぜ

(流行性耳下腺炎)

発熱し、耳下腺が腫れます。髄膜炎を合併したり、難聴や不妊症が残ることがあります。



おたふくかぜ ワクチン

任意

効果
90%
副反応
無菌性髄膜炎
1%未満

予防接種センター

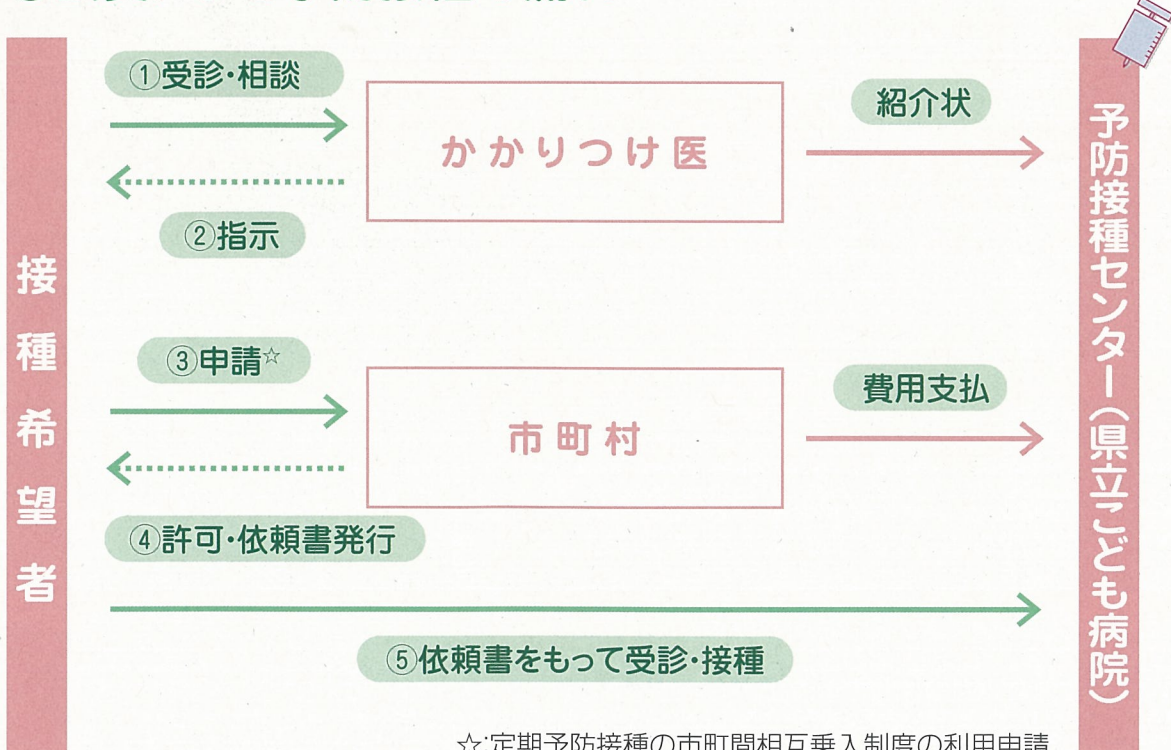
静岡県立こども病院は、静岡県より「**予防接種センター**」に指定されています。

ここで行う予防接種の対象者は、次のようなこどもで、かかりつけ医が接種することを勧め、家族が接種を承諾（希望）される場合です。

- 1 かかりつけ医に接種要注意者と判定された場合
- 2 慢性の病気を有するために接種を断られた場合
- 3 かかりつけ医に免疫不全症を疑われた場合
- 4 以前の予防接種でトラブルがあった場合
- 5 海外渡航のため急いで接種する必要がある場合

- ・法律に基づく定期予防接種、B型肝炎、ヒブ（インフルエンザ菌b型）、小児用肺炎球菌、四種混合（DPT-ポリオ）、BCG、麻疹・風疹混合（MR）、水痘、日本脳炎、HPVワクチンはすべて接種可能です。
- ・公費でこれらの接種を希望される場合は、居住地の市町村役場の許可を得て **依頼書** を発行してもらう必要があります。市町村の予防接種担当課へお問い合わせください。
- ・ロタウイルス、インフルエンザ、おたふく風邪、肺炎球菌（23価）ワクチンは任意接種になります。A型肝炎ワクチンは、普通は小児には接種しませんが、海外渡航などで必要があればご相談に応じます。
- ・任意接種のワクチンを希望される場合は、かかりつけ医の紹介状を持って受診してください。この場合は、自費接種となります。

●公費による予防接種の流れ



☆:定期予防接種の市町間相互乗入制度の利用申請

予防接種の話題

シリーズ 17 おたふくかぜワクチン

1) おたふくかぜ

おたふくかぜは、ムンプスウイルスによる感染症で、正式名称は流行性耳下腺炎です。発熱と耳下腺の腫れ・痛みが典型的な症状です。通常は数日から1週間ほどで自然に軽快し、治癒します。

おたふくかぜは、軽いと思われていますが、時に厄介な合併症を伴います。最も重要なのが無菌性髄膜炎で、激しい頭痛や嘔吐がみられます。おたふくかぜで入院するのはほとんど無菌性髄膜炎によるものです。難聴も重要な合併症です。両側の場合はすぐに気づかれますが、片側のみ場合は発見が遅れることがあります。そのほか、膵炎や睾丸炎、卵巣炎がよく知られています。

2) おたふくかぜワクチンの効果

海外の実績からおたふくかぜワクチンを定期接種として1回接種すると、おたふくかぜの発生数が90%減少し、2回接種すると99%減少することが知られています。このようにおたふくかぜワクチンの有効性は広く認められており、多くの国でMMR（麻疹、風疹、おたふくかぜ）混合ワクチンとして定期接種化されています。残念ながら、わが国では定期接種になっていません。なぜなのでしょう？

3) 定期接種化への課題

実は、わが国でも1989年から4年間、MMRワクチンが定期接種となっていました。しかし、副反応として無菌性髄膜炎が多発したため中止された経緯があります。その反省を踏まえ、現在も定期接種に使用できる安全なMMRワクチンの開発が続けられています。

副反応が少なく、効果も高い弱毒ウイルスの選定が最も重要な鍵となります。興味深いことに、最近、接種年齢が低いとおたふくかぜワクチンの副反応が少ないことがわかってきました。現在、生ワクチンは1歳で接種するのが一般化しており、おたふくかぜワクチンの副反応が出にくい環境が整っているといえます。安全性に十分に配慮しながらも、可能な限り早く定期接種化されることを望みたいと思います。

メモ

おもな予防接種と対象者年齢一覧

(2019年4月1日現在)

区分	種類	年齢																		
		0歳				1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳
		2カ月	3カ月	6カ月	9カ月															
予防接種法 (定期接種)	B型肝炎	★	★	★																
	ヒブ (インフルエンザ菌b型)	★	★	★	★															
	小児用肺炎球菌 (13価)	★	★	★	★															
	四種混合1期 (DPT-ポリオ) (注1)	★	★	★	★															
	DT2期																		★	
	BCG			★																
	麻疹・風疹混合 (MR)					★														★
	水痘					★	★													
	日本脳炎 (注2)								★	★	★									★
	HPV (注3)																			★
任意 接種	ロタウイルス	★	★																	
	インフルエンザ																			★
	おたふく風邪																			★
	肺炎球菌 (23価)																			★

注1：4種混合ワクチンの代わりに、DPTと不活化ポリオワクチンを使用することもできます。

注2：1995(平成7)年4月2日～2007(平成19)年4月1日生まれの人は20歳未満まで、日本脳炎の定期接種を受けることができます。

2007(平成19)年4月2日～2009(平成21)年10月1日生まれで第1期末完了の場合、第2期の期間に不足分を接種することができます。

注3：ヒトパピローマウイルス。現在、勧奨接種は差し控えられています。

- D：ジフテリア
- P：百日咳
- T：破傷風
- M：麻疹
- R：風疹

- ★ 接種(推奨される時期と回数を示す)
- 法律で定められている接種年齢
- 標準的な接種年齢
- 任意接種の接種年齢